

しずおか

Shizuoka Junior High School Attached to the Faculty of Education of Shizuoka University

静岡大学教育学部
附属静岡中学校
2025.SUMMER

No. 94



学びの自覚

国語科の主張

1. 教科で育みたい人間像

豊かな言語感覚をもつ人

2. 教科で願う学び

言葉を吟味し言語感覚を磨くことと、言葉を介して考えや価値観を更新することと、それらを往還すること

言葉は世界を変える力をもっています。私たちは、言葉を吟味し、言語感覚を磨き、自らの考えや価値観を更新し、ものの見方を豊かにしていく子どもの姿を大切にしています。このような学びを育む授業づくりを多くの先生方と考えていければ幸いです。(若林卓・井上由貴・三島将弘)



社会科の主張

1. 教科で育みたい人間像

社会に参画し、創り続ける人

2. 教科で願う学び

課題解決をめざして、根拠に基づいた自分なりの考えを、他者と練り上げながら、よりよい社会の構築に向けて発展させていくこと

私たちが生きる現代社会は、これまでよりも複雑化し、価値観の違いや利害関係による対立が深刻化しています。私たちは、子どもたちがAI技術や他者に頼って生きていくのではなく、社会的課題について自分なりの思いをもち、希望を抱きながら社会にかかわり、力強く生きていってほしいと願っています。子どもたちが社会的事象に向き合い、多くの視点や立場から考え、それぞれの思いをもって、よりよい社会の構築に向けて語り合う授業を実践していきます。(黒柳友義・井村和仁)



理科の主張

1. 教科で育みたい人間像

「科学のまなざし」をもつ人

2. 教科で願う学び

自然の事物・現象に探究心をもち、自然の事物・現象のとらえ方を発展・深化させること

「科学のまなざし」をもつ人は、自然の事物・現象をよく見つめ、そこから目に見えない本質を見だし、感動したり、畏敬の念を抱いたりする豊かな心をもっています。私たちは、子どもたちが自ら問いを立て、探究への没頭と科学的な対話を積み重ねながら、自然の事物・現象の本質に迫っていく姿を大切にしています。科学的な知性と感性を育む授業をめざしていきます。(落合哲也・糟屋晃久)



技術科の主張

1. 教科で育みたい人間像

技術を分析し活用しながら、よりよい生活を営む人

2. 教科で願う学び

技術をあらゆる角度や側面から見つめ、試行錯誤を繰り返しながら、最適解を導き出すこと

技術が急速に進化する現代において、よりよい生活を営むためには、技術と主体的にかかわりながらその価値や本質を見極め、自分なりの付き合い方を見いだしていくことが大切であると考えます。授業では、「考えること」に時間をかけ、技術を見つめる視点を豊かなものにしていながら、よりよい生活や社会を追求していきます。(松原佑)



数学科の主張

1. 教科で育みたい人間像

論理的かつ客観的に解決にあたる人

2. 教科で願う学び

数や図形、統計、関数の概念を共に再構築していくこと

私たちが願いや思いを込めて題材を構想、実践すると、子どもたちは疑問から問いを生み出し、それらを解決する過程において、数理的にとらえ、これまでの学びとつなげたり、新たな切り口から考えたりします。子どもたちと共に数学を楽しむ授業づくりについて、一緒に語り合いませんか？(西谷聡一郎・児玉祐樹・勝又俊)



英語科の主張

1. 教科で育みたい人間像

言葉で心通わせる人

2. 教科で願う学び

英語を通して心通わせるかわりを積み重ねること

相手意識をもったコミュニケーションの中で、子どもたちは自分の思いを伝えるために使用する言葉の選択にこだわったり、相手の言葉に込められたメッセージを味わったりしながら、他者と心から理解し合うための視野や考え方の幅を広げていってほしい。子どもたちの「伝えたい」「知りたい」という思いをかき立てるような授業をめざします。(吉田龍弘・松永有未・小野瑞歩)



各教科の主張

「観」を豊かにすること

教科の学びを通して、自分と自分を取り巻く世界とのつながり方が修正・洗練・統合されることを実感することで、子どもたちそれぞれがもつ「観」を共に育む授業実践をしていきます。

美術科の主張

1. 教科で育みたい人間像

自分も相手も大切にしながら、自分らしく未来を創造していく人

2. 教科で願う学び

感性を豊かに働かせながら、自分の想いを表現するために、造形的な視点をもって試行錯誤し、自分らしさを追求しながら新しい価値を見いだしていくこと

「〇〇〇を表現するために、作品を浮かせたいんです。磁石の力を使えばできると思います」昨年度、そうやって実験を始めた子どもがいました。自分の想いを表現するために、今まで学習したことを生かして試行錯誤している姿は、美術の授業でめざす姿そのものでした。子どもたちの想いがあふれる授業をめざしていきたいと思っています。子どもたち一人一人の「らしさ」を感じていただけたらうれしいです。(望月理恵)



音楽科の主張

1. 教科で育みたい人間像

音や音楽のよさを分かち合う、心豊かな人

2. 教科で願う学び

音や音楽を感性と知性の両面からとらえ、仲間と語り合うことでよさを分かち合い、音や音楽を味わうこと

音楽は目には見えないからこそ、心の奥深くで人の感情に訴えかける力をもっています。生活の中で体験した音楽から「なんでこう感じるのだろう」という素朴な疑問も生まれるでしょう。音楽科では、音楽を形づくっている要素の働きや関連をもとに追求し、感性と知性の両面から音楽をとらえていきます。そして仲間と語り合うことで、音楽のよさを味わう姿を期待しています。(清水美奈)



保健体育科の主張

1. 教科で育みたい人間像

運動や健康を科学する人

2. 教科で願う学び

運動や健康に関する事象に対して、問いを立て、納得解を見いだす過程を繰り返すことで見方を広げていくこと

子どもたちが、生涯にわたって運動に親しんだり、健康な生活を送ったりするためにはどのような力を高めていく必要があると思いますか。保健体育科では、運動に親しむことや健康な生活を送ること自体について問い直し、子どもたちがその時の納得解を語り合う中で、見方を鍛える授業実践に取り組んでいます。(勝野由志雄)



総論・教科の主張

QRコードをスキャンすると本年度の総論と各教科の主張の詳細をご覧いただけます。



学校保健

子どもたちが授業で学ぶ喜びを感じたり、行事や日々の生活で幸せを感じたりするために養護教諭は何かができるでしょうか。子どもたちはもちろん、共に子どもを育てる教職員に対して行う養護教諭ならではのアプローチを考えましょう。





私たちは、みんな『星のかげら』でできている！?

校長 酒井 宣幸

私たちの太陽は、一世代前の恒星の寿命が尽き、超新星爆発を起こして飛び散った「チリ＝星のかげら」が、宇宙空間で互いの引力で引きつけ合い集まって約46億年前に再び輝き始めました。では、太陽にならなかった残りの「チリ＝一世代前の星のかげら」はどうなったのでしょうか？それらは、原始の太陽の周りをぐるぐると漂いながら、くっつきあって、地球・金星・木星などの惑星、準惑星、小惑星、各惑星を回る衛星などになりました（ちなみに、太陽系全体の質量の99.9%は太陽で、残りのほん少しが、我々の地球を始めとする惑星や小惑星・衛星などです。いかに太陽が巨大で大きな質量をもっているかに驚かされますね）。

一方、私たちの身体は何からできているかというと、食べ物＝野菜、穀物、魚、肉、水などで、その食べ物はどこから？と元をたどると、食物連鎖のスタートは全て植物に行き着きます。さらに、その植物を形作っている物質は、全て地球上の土や水・空気などの物質＋太陽の光エネルギーです。こうして考えていくと、私たちの身体を構成している物質は、元をたどると、全て「地球上に存在している物質＋太陽」であり、同時に、それらは「大昔に爆発した一世代前の『星のかげら』が由来である」ということになります。

どうでしょう？こうして考えていくと、「私たちは、みんな『星のかげら』でできている」と言えないでしょうか？「学ぶこと」を通して、私たちは身の回りの事柄について様々な見方・考え方を得ていきます。それは、大きな喜びであり、自らの生き方をより豊かなものにしていきます。現在、本校で研究している「学びの自覚」は、子どもたちのもつ可能性を引き出し、より豊かに成長させるためにはどうあったらよいのかについて研究を行っており、学びに対する本質的な喜びを実感できるような授業を目指しています。

今後もより研究の質を高めるために、研究発表会を通して多くの先生方に忌憚のないご意見をいただきたいと願っております。多くの先生方のご参加をよろしく願いたします。

授業を通して「観」を豊かにすること

研修部長 西谷 聡一郎

「観」

といわれたら、どのようなことを思い浮かべるでしょうか。私たち教員であるならば題材観、単元観、子ども観、生徒観などのような授業案の細案に書く内容が頭に思い浮かんだ人も少なくないのではないのでしょうか。これらのような観は特別、教員のみが抱いているものではありません。子どもたちも各教科そのものや授業に対してそれぞれ観を抱いていると考えています。

だからこそ、授業の中では「なぜこういうことがいえるのだろう」「あれってどうなっているのか知りたい」「自分の考えと違うからもっと聞きたい」と授業者も含めた仲間と共に各教科に向き合い、題材を自分事にしながら考え進めていきます。このような子どもたちの素敵な姿は本校で学び始めてすぐにあらわれるわけではありません。授業者が子どもたちに「このような学びをして欲しい」という願いを大切にしたい題材構想のもと、仲間と共に3年間学ぶことを通して少しずつ育まれていきます。子どもたちは各教科で単なる知識の獲得ではなく、その教科のもっている本質やその教科を学ぶ価値を実感していきます。このような子どもたちは教科ごとの観を豊かにしながら学びを積み重ねていることでしょう。

本校では「教科で人間を育む」という理念のもと、人間形成に寄与する学びを大切にしており、令和2年度より「学びの自覚」という研究主題を掲げ、子どもたちの学びの「何が」「どのように」人間形成につながっているのかを明らかにしようと研究を進めてきました。

10月31日（金）におきましては、これまでの5年間の研究で見えてきたことを研究発表会という形でお伝えできればと考えています。発表会に足を運んでくださる参加者のみなさまから、忌憚のないご意見をいただきつつ、本校の研究内容をもとに、子どもの学びを中心に授業者のふるまいを見つめ直し、よりよい授業のあり方について共に語り合うことができれば幸いです。



令和7年度 教育研究発表会のご案内

研究主題

学びの自覚 ―「観」を豊かにすること―

講師 奈須 正裕 先生

上智大学総合人間科学部
教育学科教授



期 日 令和7年10月31日（金）

会 場 静岡大学教育学部附属静岡中学校

内 容 公開授業、教科別協議、講演

※開催の詳細につきましては、9月の二次案内にて改めてご案内します。

 静岡大学教育学部 附属静岡中学校

〒420-0856 静岡県静岡市葵区駿府町1番86号

TEL 054-255-0137 FAX 054-252-7335

E-mail osizuchu@shizuoka.ac.jp

URL <https://fzk.ed.shizuoka.ac.jp/shizuchu/>

HPには、教育研究協議会のお知らせや、日頃の授業のようすなどを掲載しています。ぜひ、ご覧ください。

